

〈研究ノート〉

高齢化社会と地域福祉 (3)

——韓国におけるスポーツと子どもの意識調査——

石橋 勇・日隈 健一

(受付 2001年5月10日)

目 次

- I. はじめに
- II. 韓国スポーツの現状
- III. 調査の目的
- IV. 調査地域の特徴
- V. 調査の方法
- VI. 調査の期間
- VII. 調査の結果
- VIII. 光州市(都市部)と靈巖邑(農村部)との比較
- IX. おわりに

I. は じ め に

韓国の高齢化率は6.8% (2000年) といわれ、2020年には14%と推定されている。これは日本の経験をはるかに超える早さである。こうした中で福祉関連財源の確保やマンパワーの充実など高齢化社会への対応が急がれている。しかしながら、天然資源が不足している韓国では対外貿易依存度が高く、「高コスト・低効率」の構造が深まり、1990年代半ば以来、経常赤字の増加や企業採算性の悪化等続く貿易赤字と1990年後半はIMF管理下に置かれて経済成長は低迷を続けている。

このような現状のなかで福祉関連の財源確保は充分に至らず、国民一人ひとりの健康増進への意識の向上を求めて、日本と同様に韓国でも生涯スポーツの振興は最重要課題となっている。なかでも現在の高齢者に、新た

に健康増進のための生涯スポーツ振興を図ると同時に、子どもの時期から長期的なスタイルで生涯スポーツ振興を図るといった将来を見越した振興が要求されている。特に子どもにとってスポーツは身体発達過程での重要な一因を担っていることから、心身の機能や技能・社会性などの発達は遊びやスポーツ活動などの身体運動に強く影響される。また、子どもの段階で世代間を越えた共通する楽しみの一つとして、スポーツ活動を経験することは加齢による違和感を生じることなくスポーツに親しみ、楽しめるといえる。こうしたことが、いわゆる健康寿命を延伸することで高齢者自身の生活満足度を高めるだけでなく、過度な保健・医療への依存体質から脱皮することにつながり、今日、国や地方自治体の財政圧迫の主な要因の課題を解決する糸口の一つでもある。

具体的には、生涯にわたって続けられる運動（スポーツ）の楽しみ方や基本的動作などを児童期から身につけさせることが求められるが、日本では文部省の体力・運動能力調査結果によると、児童の体力や運動能力の低下は明らかな傾向をみせている。これは、一般にテレビゲーム・パソコンなどのマルチメディアの普及などや、日常生活での利便性の向上などさまざまな要因が身体活動の制限をもたらしてきたことも一因とされる。また、戦中、戦後、スポーツなどに時間を費やす余裕のなかった世代を除いて、これまでスポーツは得意な人、選ばれた人（選手）がやるものという傾向があった。これは、学校教育での「できる・できない」だけの評価が運動嫌いを助長する結果となったといえる。また、こうした若いうちからの体力や身体能力の低下が、これからの高齢化社会に寝たきり老人を作っていく一因とも考えられる。

近年では生涯スポーツへのニーズが高まり、その結果、現在ではレクリエーションスポーツに代表されるような「楽しむ」といった価値観に変わってきている。また、労働時間の短縮や週休二日制の浸透、平均寿命の延長など、さまざまな要因による余暇時間の増加により、余暇が積極的自己実現の場として考えられる時代にもなった。

本調査研究は子どもたちのスポーツ観と現状を把握し、生涯スポーツへの相関、あるいは健康寿命との関連性の分析を視座とするものである。

Ⅱ. 韓国スポーツの現状

韓国は1984年のアジア大会、1988年のソウルオリンピック大会以降、国民の健康に対する関心は高揚し、レジャーやスポーツ活動に対する欲求は一層高まった。また、経済成長によって、人々の経済的環境は大きく改善され、あわせて余暇時間の増大などによってスポーツ活動は自己実現や余暇活動の一つとして認識された。こうした背景から政府の対応もこれまでの一部の競技者だけのために行ってきた競技力強化の姿勢から、一転して国民のための生涯スポーツの振興へと変わっていった。しかし、1990年代に入り、経済の破綻による企業の連鎖倒産や国家財政の悪化などにより、スポーツ振興は停滞期を迎えている。例えば、スポーツ振興の一翼を担っていた企業スポーツやプロスポーツにも陰りが見え始めたのと同時に、地方へのスポーツ施設・設備も遅れ気味となった。

韓国では、日本と同様に野球、サッカーといったプロスポーツに人気が高い。野球が韓国で初めて行われたのは1950年。日本ほどではないが1960年代にはすでに高校野球がブームとなり、これが野球のレベルを高めるきっかけとなった。サッカーは、伝統的に韓国の国民が好きなスポーツで、常にスポーツ紙の紙面をにぎわしている。このほか韓国固有の護身術であるテコンドーや、冬になるとスキーやスケートが人気で、競技力でいえばスケートのショートトラックでは世界トップレベルにある。

Ⅲ. 調査の目的

本調査は、これから少子高齢化社会を迎えようとする韓国のスポーツに対する子どもたちの意識調査である。ソウルオリンピックを契機に国民のスポーツに対する関心が高まり、競技スポーツ強化を中心として行ってきた政策から生涯スポーツ強化へと変わってきている韓国で、現在小学校に

通っている児童(中・高学年)を対象にし、子どもたちがスポーツにどう関わっているのかについての実態を調査集計し、施設・設備等のハード面や、指導者などのソフト面との関連やスポーツに対するとらえ方などを、調査データをもとに分析する。また、韓国の都市部(光州市)と郡部(靈巖邑)のデータにより、都市部と近郊農村の比較も同時に行う。

IV. 調査の地域の特徴

調査は光州市(約120万人)と人口約1万人の光州市近郊農村地帯である靈巖郡靈巖邑(町)を選んだ。

1) 光州市

光州市は韓国全羅南道の中核都市として交通の要所であり、高速道路でソウル、釜山、大邱ともつながっている。航空便はソウル・済州・釜山へ往復運航しているほか、不定期チャーター便が海外へ就航している。

光州には多くの観光地があり、象徴的な無等山をはじめ、光州ビエンナーレは韓国の芸術を世界にその知名度を高めている。また、光州市の高齢人口比率は約5.4%(2000年)である。

2) 全羅南道靈巖郡靈巖邑

靈巖邑は、光州市の南西部に位置し、面積は59.61平方キロで、その内耕地28%、林野58%、残りの16%が宅地。人口約10,900人、世帯数約3,600世帯うち農家は約37%。特産は米や梨・スイカ、工芸品は竹櫛などがある。

また、国立公園指定の月出山には、年間336,000人の観光客が訪れ、近隣の村には榮山湖や聖基洞、千字文や論語を日本に伝えたと言われる王仁博士の遺蹟地などがある。

スポーツ施設は、総合運動場が1、体育館が1つ。公共教育施設としては小学校が1校、生徒数は950名で、中学校は2校、生徒数は950名、高等学校は2校、生徒数は約1,000名である。

この地域の高齢人口比率は約15%で、韓国全体の6.8%をかなり上回っている。(霊巖郡庁, 2000, 『霊巖郡概況』)

V. 調査の方法

光州市では、光州日報社(新聞社)の協力を得て、光州市内の小学校でアンケート票配布による調査を実施した。(表1-1)

霊巖邑では、霊巖郡庁及び霊巖邑、そして広島との文化交流をおこなっている「ちんぐの会」(会員55名)の協力を得て、アンケート票聞き取り調査を実施した。(表2-1)

表1-1 光州市の調査属性表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 総数 (%) |
|------|------------|------------|------------|
| 10 歳 | 4 (0.8) | 5 (1.1) | 9 (1.9) |
| 11 歳 | 28 (6.1) | 33 (7.1) | 61 (13.2) |
| 12 歳 | 133 (28.8) | 120 (26.0) | 253 (54.8) |
| 13 歳 | 77 (16.6) | 57 (12.4) | 134 (29.0) |
| 無回答 | 4 (0.9) | 1 (0.2) | 5 (1.1) |
| 合計 | 246 (53.2) | 216 (46.8) | 462 (100) |

表2-1 霊巖邑の調査属性表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 総数 (%) |
|------|------------|------------|------------|
| 8 歳 | 7 (2.4) | 13 (4.6) | 20 (7.0) |
| 9 歳 | 6 (2.1) | 7 (2.4) | 13 (4.5) |
| 10 歳 | 56 (19.6) | 56 (19.6) | 112 (39.2) |
| 11 歳 | 41 (14.3) | 41 (14.3) | 82 (28.6) |
| 12 歳 | 33 (11.6) | 26 (9.1) | 59 (20.7) |
| 合計 | 143 (50.0) | 143 (50.0) | 286 (100) |

VI. 調査の期間

光州市, 霊巖郡霊巖邑ともに, 2000年8月に調査実施。

VII. 調査の結果

1) 光州市

(1) スポーツ活動の有無

現在, 学校及び地域でスポーツを「行っている」と回答した子どもは34.8%で, 男女別内訳は男子が25.1%, 女子が9.7%。(グラフ1-1)

(2) スポーツの種類

種目は, 全体ではサッカー, テコンドー, バドミントンの順。男女別で

は、男子がサッカー、テコンドー、野球の順で、女子はバドミントン、水泳、なわとびという順である。

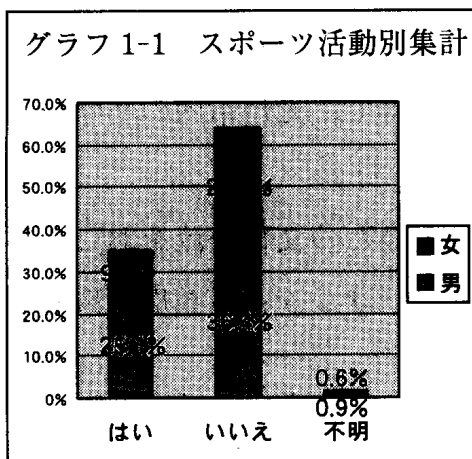


表 1-2 スポーツ活動内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|--------|------------|-----------|-----------|
| サッカー | 29 (18.0) | 0 (0) | 29 (18.0) |
| テコンドー | 24 (14.9) | 2 (1.3) | 26 (16.2) |
| バドミントン | 8 (5.0) | 11 (6.8) | 19 (11.8) |
| 陸上 | 11 (6.8) | 6 (3.7) | 17 (10.5) |
| 野球 | 15 (9.3) | 0 (0) | 15 (9.3) |
| その他 | 29 (18.0) | 26 (16.2) | 55 (34.2) |
| 合計 | 116 (72.0) | 45 (28.0) | 161 (100) |

(3) スポーツを始めたキッカケ

「自分から始めた」が一番多く、72.7%。続いて、「親の勧め」が14.3%。

(表 1-3)

(4) 放課後や休日の過ごし方

一番多かったのは「テレビゲーム」で39.0%。2位は「スポーツ」で16.2%。(表 1-4)

表 1-3 スポーツを始めたキッカケ

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 3 | 1.9 | 1.9 | 1.9 |
| 自分から | 117 | 72.7 | 72.7 | 74.5 |
| 先生から | 1 | .6 | .6 | 75.2 |
| 友だちから | 8 | 5.0 | 5.0 | 80.1 |
| 親から | 23 | 14.3 | 14.3 | 94.4 |
| その他 | 9 | 5.6 | 5.6 | 100.0 |
| 合計 | 161 | 100 | 100.0 | |

表 1-4 放課後や休日の過ごし方

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 9 | 1.9 | 1.9 | 1.9 |
| スポーツ | 75 | 16.2 | 16.2 | 18.2 |
| その他 | 129 | 27.9 | 27.9 | 46.1 |
| テレビゲーム | 180 | 39.0 | 39.0 | 85.1 |
| 塾 (習い事) | 69 | 14.9 | 14.9 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

(5) スポーツとテレビゲームの比較

「スポーツとテレビゲームはどちらが好きですか」の問いに対して、53.7

%がテレビゲームと答え、スポーツと答えたのは27.3%であった。(表1-5)

(6) スポーツの頻度

子どもの1週間のスポーツ頻度を見ると、比較的分散していて、顕著な差はないが毎日スポーツをおこなう子どもが一番多い。(表1-6)

表1-5 テレビゲームとスポーツに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 回答なし | 8 | 1.7 | 1.7 | 1.7 |
| スポーツ | 126 | 27.3 | 27.3 | 29.0 |
| テレビゲーム | 248 | 53.7 | 53.7 | 82.7 |
| どちらとも いえない | 80 | 17.3 | 17.3 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

表1-6 1週間のスポーツ頻度調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 3 | 1.9 | 1.9 | 1.9 |
| 1～2日 | 44 | 27.3 | 27.3 | 29.2 |
| 3～6日 | 56 | 34.8 | 34.8 | 64.0 |
| 毎日 | 58 | 36.0 | 36.0 | 100.0 |
| 合計 | 161 | 100 | 100.0 | |

(7) 将来のスポーツ活動

現在おこなっているスポーツを、「将来続けていきたい」と答えた子どもが62.7%。(表1-7)

(8) 高齢になってからのスポーツに対する自信

将来、高齢者になってもスポーツをする「自信がある」と答えた子どもが52.8%、「自信がない」と答えたのが8.1%。(表1-8)

表1-7 将来に関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 4 | 2.5 | 2.5 | 2.5 |
| はい | 101 | 62.7 | 62.7 | 65.2 |
| いいえ | 56 | 34.8 | 34.8 | 100.0 |
| 合計 | 161 | 100 | 100.0 | |

表1-8 将来高齢者になってからに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 3 | 1.9 | 1.9 | 1.9 |
| はい | 85 | 52.8 | 52.8 | 54.7 |
| いいえ | 13 | 8.1 | 8.1 | 62.7 |
| どちらとも いえない | 60 | 37.3 | 37.3 | 100.0 |
| 合計 | 161 | 100 | 100.0 | |

(9) スポーツ活動の形態

スポーツ活動の形態をみると、学校のクラブ活動よりも地域のクラブ活動の方が上回っている。(表 1-9)

(10) 指導者の形態

指導者も学校の先生に指導されるケースよりも地域の指導者に指導されるケースの方が多い。(表 1-10)

表 1-9 スポーツ活動形態内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|--------|------------|-----------|-----------|
| 学校のクラブ | 21 (13.0) | 5 (3.1) | 26 (16.1) |
| 地域のクラブ | 35 (21.7) | 14 (8.7) | 49 (30.4) |
| その他 | 56 (34.8) | 22 (13.7) | 78 (48.5) |
| 無回答 | 4 (2.5) | 4 (2.5) | 8 (5.0) |
| 合計 | 116 (72.0) | 45 (28.0) | 161 (100) |

表 1-10 指導者内訳表

| | 合計 (%) |
|--------|-----------|
| 学校の先生 | 21 (13.0) |
| 地域の指導者 | 48 (29.8) |
| その他 | 84 (52.2) |
| 無回答 | 8 (5.0) |
| 合計 | 161 (100) |

(11) スポーツ中のケガ

スポーツ活動中でのケガについての問いには、「ケガをしたことがある」と答えた子どもは44.1%と半数近い子どもが「ケガをしたことがある」という結果であった。(表 1-11)

(12) ケガの相談

ケガをしたときに、だれに相談をするかという問いには、「親」が47.2%、「指導者」が18.6%。(表 1-12)

表 1-11 ケガの有無内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|-----|------------|-----------|-----------|
| ある | 59 (36.6) | 12 (7.5) | 71 (44.1) |
| ない | 45 (28.0) | 32 (19.8) | 77 (47.8) |
| 無回答 | 12 (7.5) | 1 (0.6) | 13 (8.1) |
| 合計 | 116 (72.1) | 45 (27.9) | 161 (100) |

表 1-12 ケガの相談内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|-----|------------|-----------|-----------|
| 指導者 | 25 (15.5) | 5 (3.1) | 30 (18.6) |
| 親 | 53 (32.9) | 23 (14.3) | 76 (47.2) |
| その他 | 28 (17.4) | 6 (3.8) | 34 (21.2) |
| 無回答 | 10 (6.2) | 11 (6.8) | 21 (13.0) |
| 合計 | 116 (72.0) | 45 (28.0) | 161 (100) |

(13) スポーツ施設との関係

スポーツ施設があったら、「もっとスポーツをする」と答えた子どもは56.9%。(表 1-13)

(14) スポーツ指導者との関係

近くに指導者がいれば、「もっとスポーツをする」と答えた子どもは51.1%。(表 1-14)

表 1-13 スポーツ施設に関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 17 | 3.7 | 3.7 | 3.7 |
| はい | 263 | 56.9 | 56.9 | 60.6 |
| いいえ | 94 | 20.3 | 20.3 | 81.0 |
| どちらとも いえなし | 88 | 19.0 | 19.0 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

表 1-14 スポーツ指導者に関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 14 | 3.0 | 3.0 | 3.0 |
| はい | 236 | 51.1 | 51.1 | 54.1 |
| いいえ | 115 | 24.9 | 24.9 | 79.0 |
| どちらとも いえなし | 97 | 21.0 | 21.0 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

(15) スポーツと進学準備

最後に、全員にスポーツと進学準備についてどちらを選ぶかという問いをしたところ、23.6%が「スポーツ」と答え、50.0%が「進学のための受験」と答えている。(表 1-15)

韓国の受験環境は非常に厳しい状況である。特に男子は高学歴指向が強く、長男に至っては特に家族の期待が高い。こうしたことも、子どもの段階で受験への意識を強くしている。

表 1-15 受験とスポーツに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 15 | 3.2 | 3.2 | 3.2 |
| 受験 | 231 | 50.0 | 50.0 | 53.2 |
| スポーツ | 109 | 23.6 | 23.6 | 76.8 |
| どちらとも いえなし | 107 | 23.2 | 23.2 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

2) 霊 巖 邑

(1) スポーツ活動の有無

現在スポーツを「行っている」と答えた子どもは全体の40%で、その男女別内訳は男の子が26.6%、女の子が12.9%。(グラフ 2-1)

(2) スポーツの種類

全体ではサッカーが35.4%、陸上16.8%、なわとび8.0%の順である。男女別に見ると、男の子はサッカーがトップで、合気道、テコンドーの順である。一方、女の子ではトップが陸上、なわとびと続き、バドミントンとフライングが同数である。(表 2-2)

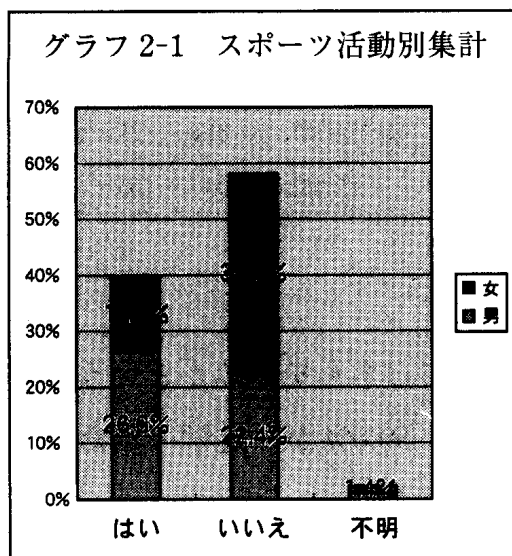


表 2-2 スポーツ活動内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| サッカー | 40 (35.4) | 0 (0) | 40 (35.4) |
| 陸上 | 9 (8.0) | 10 (8.8) | 19 (16.8) |
| なわとび | 0 (0) | 9 (8.0) | 9 (8.0) |
| バドミントン | 3 (2.7) | 4 (3.5) | 7 (6.2) |
| 合気道 | 8 (7.0) | 0 (0) | 8 (7.0) |
| その他 | 16 (14.2) | 14 (12.4) | 30 (26.6) |
| 合計 | 76 (67.3) | 37 (32.7) | 113 (100) |

(3) スポーツを始めたキッカケ

スポーツを始めたキッカケは、57.5%の子どもが「自分からやりたかった」と答え、半数を超えている。(表 2-3)

(4) 放課後や休日の過ごし方

全員に、あなたは「放課後や休日は一番何をしているか」の問いには41.6%の子どもが「テレビゲーム」と答え、「スポーツ」と答えたのはわずかに12.9%。(表 2-4)

石橋・日隈：高齢化社会と地域福祉（3）

表 2-3 スポーツを始めたキッカケ

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|-----------|-----------|
| 有効 無回答 | 4 | 3.5 | 3.5 | 3.5 |
| 自分から | 65 | 57.5 | 57.5 | 61.1 |
| 先生から | 11 | 9.7 | 9.7 | 70.8 |
| 友だちから | 11 | 9.7 | 9.7 | 80.5 |
| 親から | 17 | 15.0 | 15.0 | 95.6 |
| その他 | 5 | 4.4 | 4.4 | 100.0 |
| 合計 | 113 | 100 | 100.0 | |

表 2-4 放課後・休日の過ごし方

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|-----------|-----------|
| 有効 無回答 | 18 | 6.3 | 6.3 | 6.3 |
| スポーツ | 37 | 12.9 | 12.9 | 19.2 |
| テレビゲーム | 119 | 41.6 | 41.6 | 60.8 |
| 塾(習い事) | 40 | 14.0 | 14.0 | 74.8 |
| その他 | 72 | 25.2 | 25.2 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

(5) スポーツとテレビゲームの比較

「スポーツ」と「テレビゲーム」を比べると49.0%が「テレビゲーム」が好きと答え、「スポーツ」と答えたのは29.0%。(表 2-5)

(6) スポーツの頻度

スポーツ活動をおこなっている子どもの1週間のスポーツ頻度をみると、51.3%が「3～6日」と答えた子どもが最も多かった。(表 2-6)

表 2-5 テレビゲームとスポーツに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|-----------|-----------|
| 有効 回答なし | 20 | 7.0 | 7.0 | 7.0 |
| スポーツ | 83 | 29.0 | 29.0 | 36.0 |
| テレビゲーム | 140 | 49.0 | 49.0 | 85.0 |
| どちらとも いえない | 43 | 15.0 | 15.0 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

表 2-6 1週間のスポーツ頻度調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------|-----|------|-----------|-----------|
| 有効 1～2日 | 34 | 30.1 | 30.1 | 30.1 |
| 3～6日 | 58 | 51.3 | 51.3 | 81.4 |
| 毎日 | 21 | 18.6 | 18.6 | 100.0 |
| 合計 | 113 | 100 | 100.0 | |

(7) 将来のスポーツ活動

スポーツを将来も「続けたい」と答えた子どもは半数を超える54.0%。(表 2-7)

(8) 高齢になってからのスポーツに対する自信

将来、高齢者になってもスポーツを続ける「自信がある」と答えた子どもは41.6%、「自信がない」と答えた子どもは20.4%。(表 2-8)

表 2-7 将来に関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 3 | 2.7 | 2.7 | 2.7 |
| はい | 61 | 54.0 | 54.0 | 56.6 |
| いいえ | 49 | 43.4 | 43.4 | 100.0 |
| 合計 | 113 | 100 | 100.0 | |

表 2-8 将来高齢者になってからに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 2 | 1.8 | 1.8 | 1.8 |
| はい | 47 | 41.6 | 41.6 | 43.4 |
| いいえ | 23 | 20.4 | 20.4 | 63.7 |
| どちらとも いえない | 41 | 36.3 | 36.3 | 100.0 |
| 合計 | 113 | 100 | 100.0 | |

(9) スポーツ活動の形態

この地域のスポーツ活動の形態をみると、「学校のクラブ活動 (35.4%)」の方が「地域のクラブ活動 (28.3%)」よりも上回っている。(表 2-9)

(10) 指導者の形態

指導者も「地域の指導者 (22.1%)」に指導されるケースよりも「学校の先生 (26.6%)」に指導されるケースの方が多い。(表 2-10)

表 2-9 スポーツ活動形態内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 学校のクラブ | 33 (29.2) | 7 (6.2) | 40 (35.4) |
| 地域のクラブ | 18 (15.9) | 14 (12.4) | 32 (28.3) |
| その他 | 25 (22.1) | 16 (14.2) | 41 (36.3) |
| 合計 | 76 (67.2) | 37 (32.8) | 113 (100) |

表 2-10 指導者内訳表

| | 合計 (%) |
|--------|-----------|
| 学校の先生 | 30 (26.6) |
| 地域の指導者 | 25 (22.1) |
| その他 | 57 (50.4) |
| 無回答 | 1 (0.9) |
| 合計 | 113 (100) |

(11) スポーツ中のケガ

スポーツ活動中でのケガについては48.7%と約半数の子どもがケガの経験がある。(表 2-11)

(12) ケガの相談

スポーツ活動中にケガをしたとき、だれに相談をするかという問いには、「親」が51.3%、「指導者」が19.5%。(表 2-12)

この結果から、約 7 割の子どもがスポーツ現場で身近な大人である親や

指導者に相談している。

表 2-11 ケガの有無内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| あ る | 43 (38.0) | 12 (10.7) | 55 (48.7) |
| な い | 32 (28.3) | 24 (21.2) | 56 (49.5) |
| 無回答 | 1 (0.9) | 1 (0.9) | 2 (1.8) |
| 合 計 | 76 (67.2) | 37 (32.8) | 113 (100) |

表 2-12 ケガの相談内訳表

| | 男子 (%) | 女子 (%) | 合計 (%) |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| 指導者 | 19 (16.8) | 3 (2.7) | 22 (19.5) |
| 親 | 36 (31.8) | 22 (19.5) | 58 (51.3) |
| その他 | 13 (11.5) | 6 (5.3) | 19 (16.8) |
| 無回答 | 8 (7.1) | 6 (5.3) | 14 (12.4) |
| 合 計 | 76 (67.2) | 37 (32.8) | 113 (100) |

(13) スポーツ施設との関係

スポーツ施設があったら、もっとスポーツをしますかという問いでは、42.0%の子どもが「はい」と答えた。(表 2-13)

(14) スポーツ指導者との関係

近くに指導者がいれば、もっとスポーツをするかという問いには、33.9%の子どもが「はい」と答えた(表 2-14)。

表 2-13 スポーツ施設に関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 20 | 7.0 | 7.0 | 7.0 |
| はい | 120 | 42.0 | 42.0 | 49.0 |
| いいえ | 102 | 35.7 | 35.7 | 84.6 |
| どちらとも いえなし | 44 | 15.4 | 15.4 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

表 2-14 スポーツ指導者に関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 21 | 7.3 | 7.3 | 7.3 |
| はい | 97 | 33.9 | 33.9 | 41.3 |
| いいえ | 118 | 41.3 | 41.3 | 82.5 |
| どちらとも いえなし | 50 | 17.5 | 17.5 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

表 2-15 受験とスポーツに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 23 | 8.0 | 8.0 | 8.0 |
| 受験 | 156 | 54.5 | 54.5 | 62.6 |
| スポーツ | 53 | 18.5 | 18.5 | 81.1 |
| どちらとも いえなし | 54 | 18.9 | 18.9 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

(15) スポーツと進学準備

「スポーツと受験についてどちらを選ぶか」という問いをしたところ、18.5%の子どもが「スポーツ」と答え、54.5%の子どもが「受験」と答えた。(表 2-15)

3) 2002年日韓共同開催ワールドカップサッカーについての集計

2002年の日韓共同開催のワールドカップサッカーへ対する子どもたちの意識は。

(1) サッカーの興味

「サッカーに興味があるか」と聞いたところ、光州市では58.9%。(表 3-1) 霊巖邑では54.2%の子どもが「はい」と答えている。(表 3-2)

表 3-1 サッカーの興味に関する調査 (光州)

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 6 | 1.3 | 1.3 | 1.3 |
| はい | 272 | 58.9 | 58.9 | 60.2 |
| いいえ | 141 | 30.5 | 30.5 | 90.7 |
| どちらとも いえない | 43 | 9.3 | 9.3 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

表 3-2 サッカーの興味に関する調査 (霊巖)

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 |
| はい | 155 | 54.2 | 54.2 | 55.6 |
| いいえ | 99 | 34.6 | 34.6 | 90.2 |
| どちらとも いえない | 28 | 9.8 | 9.8 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

(2) 2002年ワールドカップサッカーの興味

「2002年ワールドカップサッカーに興味があるか」と聞いたところ、光州市では62.3% (表 3-3), 霊巖邑では52.8%の子どもが「はい」と答えている。(表 3-4)

(3) 2002年ワールドカップサッカーのテレビ観戦

「テレビで2002年ワールドカップサッカーを見るか」と聞いたところ、光州市では61.9% (表 3-5), 霊巖邑では54.9%の子どもが「見る」と答えた。(表 3-6)

石橋・日隈：高齢化社会と地域福祉（3）

表3-3 ワールドカップの興味に関する調査（光州）

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 6 | 1.3 | 1.3 | 1.3 |
| はい | 288 | 62.3 | 62.3 | 63.6 |
| いいえ | 123 | 26.6 | 26.6 | 90.3 |
| どちらとも いえない | 45 | 9.7 | 9.7 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

表3-4 ワールドカップの興味に関する調査（霊巖）

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 |
| はい | 151 | 52.8 | 52.8 | 54.2 |
| いいえ | 107 | 37.4 | 37.4 | 91.6 |
| どちらとも いえない | 24 | 8.4 | 8.4 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

表3-5 テレビ視聴に関する調査（光州）

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 9 | 1.9 | 1.9 | 1.9 |
| はい | 286 | 61.9 | 61.9 | 63.9 |
| いいえ | 133 | 28.8 | 28.8 | 92.6 |
| どちらとも いえない | 34 | 7.4 | 7.4 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

表3-6 テレビ視聴に関する調査（霊巖）

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 |
| はい | 157 | 54.9 | 54.9 | 56.3 |
| いいえ | 95 | 33.2 | 33.2 | 89.5 |
| どちらとも いえない | 30 | 10.5 | 10.5 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100 | 100.0 | |

(4) 2002年ワールドカップサッカーの会場観戦

「試合会場に行くか」と聞いたところ、光州市では63.0%が「行かない」、
「行く」は19.9%（表3-7）、霊巖邑では81.8%が「行かない」と答え、「行く」と答えたのは5.6%。（表3-8）

表3-7 試合会場に関する調査（光州）

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 12 | 2.6 | 2.6 | 2.6 |
| はい | 92 | 19.9 | 19.9 | 22.5 |
| いいえ | 291 | 63.0 | 63.0 | 85.5 |
| どちらとも いえない | 67 | 14.5 | 14.5 | 100.0 |
| 合計 | 462 | 100 | 100.0 | |

表3-8 試合会場に関する調査（霊巖）

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|-------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 6 | 2.1 | 2.1 | 2.1 |
| はい | 16 | 5.6 | 5.6 | 7.7 |
| いいえ | 234 | 81.8 | 81.8 | 89.5 |
| どちらとも いえない | 30 | 10.5 | 10.5 | 100.0 |
| 合計 | 286 | 100.0 | 100.0 | |

(5) 2002年ワールドカップサッカーの優勝国

2002年ワールドカップサッカーで「優勝するのはどこの国だと思いますか」と聞いたところ、光州市では69.7% (表3-9)、霊巖邑では61.2%の子どもが「韓国」が優勝すると答えた。(表3-10)

表3-9 優勝国に関する調査 (光州)

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 13 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |
| アルゼンチン | 1 | .2 | .2 | 3.0 |
| イタリア | 2 | .4 | .4 | 3.5 |
| イングランド | 1 | .2 | .2 | 3.7 |
| デンマーク | 14 | 3.0 | 3.0 | 6.7 |
| ドイツ | 1 | .2 | .2 | 6.9 |
| ナイジェリア | 1 | .2 | .2 | 7.1 |
| ブラジル | 52 | 11.3 | 11.3 | 18.4 |
| フランス | 45 | 9.7 | 9.7 | 28.1 |
| メキシコ | 1 | .2 | .2 | 28.4 |
| 韓国 | 322 | 69.7 | 69.7 | 98.1 |
| 韓国以外 | 1 | .2 | .2 | 98.3 |
| 日本 | 4 | .9 | .9 | 99.1 |
| 分からない | 4 | .9 | .9 | 100 |
| 合計 | 462 | 100 | 100 | |

表3-10 優勝国に関する調査 (霊巖)

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------|-----|------|--------|--------|
| 有効 無回答 | 15 | 5.2 | 5.2 | 5.2 |
| アメリカ | 1 | .3 | .3 | 5.6 |
| アルゼンチン | 1 | .3 | .3 | 5.9 |
| デンマーク | 2 | .7 | .7 | 6.6 |
| ドイツ | 2 | .7 | .7 | 7.3 |
| ブラジル | 41 | 14.3 | 14.3 | 21.7 |
| フランス | 42 | 14.7 | 14.7 | 36.4 |
| よく分からない | 5 | 1.7 | 1.7 | 38.1 |
| 韓国 | 175 | 61.2 | 61.2 | 99.3 |
| 日本 | 2 | .7 | .7 | 100 |
| 合計 | 286 | 100 | 100 | |

Ⅷ. 光州市 (都市部) と霊巖邑 (農村部) との比較

(1) 子どものスポーツ実施率

地域 (光州市・霊巖邑) × スポーツの実施 (行う・行わない) のクロス集計を行った (表4-1)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差は見られなかった ($\chi^2(1)=1.65, n.s.$) (表4-2)。したがって、光州市 (都市部) と霊巖邑 (農村部) では子どものスポーツ実施率に差はないといえる。

(2) 種目の違い

「子どものスポーツ実施率」は光州市と霊巖邑には差がないという結果で

表 4-1 都市と運動の
クロス表

| 度数 | | 運 動 | | 合計 |
|----|----|-----|-----|-----|
| | | 無し | 有り | |
| 都市 | 光州 | 301 | 161 | 462 |
| | 霊巖 | 173 | 113 | 286 |
| 合計 | | 474 | 274 | 748 |

表 4-2 カイ 2 乗検定

| | 値 | 自由 度 | 近有量 確率 (両側) | 正確有量 確率 (両側) | 正確有量 確率 (片側) |
|---------------------|--------------------|---------|-------------------|--------------------|--------------------|
| Pearson の カイ 2 乗 | 1.654 ^b | 1 | .198 | | |
| 連続修正 ^a | 1.459 | 1 | .227 | | |
| 尤度比 | 1.648 | 1 | .199 | | |
| Fleher の 直接法 | | | | .212 | .114 |
| 有効なケース の数 | 748 | | | | |

a. 2 x 2表に対してのみ計算

b. 0セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 104.76です。

あったが、「実施種目」では違いが現れている。都市部の光州市の方は比較的種目に対する割合は分散傾向にあるが、農村部の霊巖邑ではサッカーに集中している。これはスポーツを実施する環境の違いからこういった結果が出ていると推測できる。霊巖邑では施設・設備が少なく、ボールと空き地さえあれば手軽にでき、伝統的に人気のあるサッカーに偏っている。

「スポーツ活動の形態」を見ても、霊巖邑では学校のクラブ活動が地域のクラブ活動よりも上回り、「指導者」でも学校の先生が上回り、学校依存型スポーツ活動であるといえる。

光州市では施設・設備も比較的充実され、テコンドーなどの道場の数も多い。そのため、「スポーツ活動の形態」も地域のスポーツ活動が学校のクラブ活動を上回り、「指導者」でも地域の指導者に指導されるケースが多い。こういった環境が、都市部では農村部と比較してスポーツ種目の多様化を生んでいるといえる。

(3) 放課後や休日

地域（光州市・霊巖邑）×放課後や休日の過ごし方（スポーツ・テレビゲーム・塾・その他）のクロス集計を行った（表 4-3）。 χ^2 検定を行ったと

ころ、有意な差は見られなかった ($\chi^2(3)=1.9, n.s.$) (表4-4)。したがって、光州市と霊巖邑とで子どもの回答の比率に差はないといえる。

表 4-3 都市と回答のクロス表

序数

| | 回 答 | | | | 合計 |
|-------|-----|------|--------|-----|-----|
| | その他 | スポーツ | テレビゲーム | 塾 | |
| 都市 光州 | 129 | 75 | 180 | 69 | 453 |
| 霊巖 | 72 | 37 | 119 | 40 | 268 |
| 合計 | 201 | 112 | 299 | 109 | 721 |

表 4-4 カイ 2 乗検定

| | 値 | 自由度 | 漸近有量確率 (両側) |
|-----------------|------|-----|-------------|
| Pearson のカイ 2 乗 | 1.9a | 3 | .599 |
| 尤度比 | 1.9 | 3 | .598 |
| 有効なケースの数 | 721 | | |

a. 0セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 40.52 です。

(4) 高齢になったときの自信

地域 (光州市・霊巖邑) × 高齢になったときの自信 (はい・いいえ・どちらともいえない) のクロス集計を行った (表4-5)。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた ($\chi^2(2)=9.365$ ($p<.01$)) (表4-6)。残差分析をしたところ、都市部光州市の方が農村部霊巖邑より「高齢になったときの自信」が高いことが明らかになった。

表 4-5 都市と回答のクロス表

| | 回 答 | | | 合計 |
|----------|------|-----------|------|-----|
| | いいえ | どちらともいえない | はい | |
| 都市 光州 度数 | 13 | 60 | 85 | 158 |
| 調整済み残量 | -3.0 | .2 | 1.9 | |
| 霊巖 度数 | 23 | 41 | 47 | 111 |
| 調整済み残量 | 3.0 | -.2 | -1.9 | |
| 合計 度数 | 36 | 101 | 132 | 269 |

表 4-6 カイ 2 乗検定

| | 値 | 自由度 | 漸近有量確率 (両側) |
|-----------------|--------------------|-----|-------------|
| Pearson のカイ 2 乗 | 9.365 ^a | 2 | .009 |
| 尤度比 | 9.252 | 2 | .010 |
| 有効なケースの数 | 269 | | |

a. 0セル (.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 14.86 です。

(5) 施設・指導者の環境

地域（光州市・霊巖邑）×施設があったらスポーツをする（はい・いいえ・どちらともいえない）のクロス集計を行った（表4-7）。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた（ $\chi^2(2)=24.898$ （ $p<.01$ ））（表4-8）。残差分析をしたところ、光州市の方が霊巖邑より「施設があったらスポーツをする」と回答した方が高いことが明らかになった。

また同様に、地域（光州市・霊巖邑）×指導者がいたらスポーツをする（はい・いいえ・どちらともいえない）のクロス集計を行った（表4-9）。 χ^2 検定を行ったところ、有意な差が見られた（ $\chi^2(2)=27.960$ （ $p<.01$ ））（表4-10）。残差分析をしたところ、光州市の方が霊巖邑より「指導者がいたらスポーツをする」と回答した方が高いことが明らかになった。

表4-7 都市と回答のクロス表（施設）

| | 回 答 | | | 合計 |
|----------|------|-----------|------|-----|
| | いいえ | どちらともいえない | はい | |
| 都市 光州 度数 | 94 | 88 | 263 | 445 |
| 調整済み残量 | -5.0 | 1.1 | 3.6 | |
| 霊巖 度数 | 102 | 44 | 120 | 266 |
| 調整済み残量 | 5.0 | -1.1 | -3.6 | |
| 合計 度数 | 196 | 132 | 383 | 711 |

表4-8 カイ2乗検定（施設）

| | 値 | 自由度 | 漸近有量確率（両側） |
|------------------|---------------------|-----|------------|
| Pearsonの カイ2乗 | 24.898 ^a | 2 | .000 |
| 尤度比 | 24.431 | 2 | .000 |
| 有効なケースの数 | 711 | | |

a. 0セル(.0%)は期待度数が5未満です。
最小期待度数は49.38です。

表4-9 都市と回答のクロス表（指導者）

| | 回 答 | | | 合計 |
|----------|------|-----------|------|-----|
| | いいえ | どちらともいえない | はい | |
| 都市 光州 度数 | 115 | 97 | 236 | 448 |
| 調整済み残量 | -5.2 | .9 | 4.2 | |
| 霊巖 度数 | 118 | 50 | 97 | 265 |
| 調整済み残量 | 5.2 | -9 | -4.2 | |
| 合計 度数 | 233 | 147 | 333 | 713 |

表4-10 カイ2乗検定（指導者）

| | 値 | 自由度 | 漸近有量確率（両側） |
|------------------|---------------------|-----|------------|
| Pearsonの カイ2乗 | 27.960 ^a | 2 | .000 |
| 尤度比 | 27.670 | 2 | .000 |
| 有効なケースの数 | 713 | | |

a. 0セル(.0%)は期待度数が5未満です。
最小期待度数は54.64です。

IX. おわりに

今回、韓国都市部と農村部といった環境の違う二つの地域から子どものスポーツに関する調査・分析を行った結果、韓国では都市部と農村部でのスポーツの実施率には差が無く、環境に影響されることなくスポーツを子どもたちは行っている。しかしながら、環境によって実施種目での差が大きく現れている。子どもたちは環境が悪ければスポーツを行わないのではなく、その環境に適応した種目でスポーツを行っている。都市部では多様な種目を行う環境にあり、農村部では伝統的なサッカーなどの単一種目を中心に行っている。このように、農村部では施設、指導者等の不足によって多種目が普及できるような環境ではないことがいえる。しかしながら、都市部よりも指導者と施設を求める傾向は低い。一方、都市部では施設・指導者の要求が高まっていることにより、スポーツへの関心度の高さが伺える。

2002年ワールドカップサッカーについては、やはり地元で試合のある光州市の方が各項目を見ても関心は高く、子どもたちも楽しみのひとつとして期待していることが分かる。こういった国際試合を地元で開催することで、スポーツの関心度が更に高まり、開催後のスポーツの普及率が高まることを期待したい。

日本との比較研究（石橋勇ほか、2001、『日韓の生涯スポーツの現状と課題』、「アプローチ第9号」）で、広島県山県郡内の小学校高学年を対象に同様の調査を行った。その中で分析された日本と韓国の大きな違いを挙げると、まず、スポーツを行う「頻度」については、日本では「スポーツの実施率」は韓国よりも若干高い（表5-1）が、「実施頻度」でいえば「1週間に1, 2日」行うという回答が多数（表5-2）で、韓国では「3日以上」という頻度でスポーツを行っているという回答が多かった。また韓国では、「スポーツとテレビゲーム」を比べたときに「テレビゲーム」の方が関心度は高く、日本ではスポーツの方が関心度は高い（表5-3）。更に、受験につい

石橋・日隈：高齢化社会と地域福祉（3）

表 5-1 スポーツ活動別集計

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|-------|-----------|-----------|
| 有効 無回答 | 3 | 1.1 | 1.1 | 1.1 |
| いいえ | 112 | 39.6 | 39.6 | 40.6 |
| はい | 168 | 59.4 | 59.4 | 100.0 |
| 合計 | 283 | 100.0 | 100.0 | |

表 5-2 一週間のスポーツ頻度調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|--------|-----|-------|-----------|-----------|
| 有効 無回答 | 2 | 1.2 | 1.2 | 1.2 |
| 1日から2日 | 119 | 70.8 | 70.8 | 72.0 |
| 3日～6日 | 23 | 13.7 | 13.7 | 85.7 |
| 毎日 | 24 | 14.3 | 14.3 | 100.0 |
| 合計 | 168 | 100.0 | 100.0 | |

表 5-3 スポーツとテレビゲームに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|-------|-----------|-----------|
| 有効 無回答 | 4 | 1.4 | 1.4 | 1.4 |
| スポーツ | 132 | 46.6 | 46.6 | 48.1 |
| テレビゲーム | 70 | 24.7 | 24.7 | 72.8 |
| どちらとも いえない | 77 | 27.2 | 27.2 | 100.0 |
| 合計 | 283 | 100.0 | 100.0 | |

表 5-4 受験とスポーツに関する調査

| | 度数 | % | 有効 (%) | 累積 (%) |
|---------------|-----|------|-----------|-----------|
| 有効 無回答 | 6 | 2.1 | 2.1 | 2.1 |
| スポーツ | 98 | 34.6 | 34.6 | 36.7 |
| どちらとも いえない | 115 | 40.6 | 40.6 | 77.4 |
| 受験 | 64 | 22.6 | 22.6 | 100.0 |
| 合計 | 283 | 100 | 100.0 | |

ての項目ではスポーツよりも受験を選ぶ子どもは韓国の方が多く、受験競争の厳しさを裏付ける結果であった（表 5-4）。

日本では2050年には3人に1人は高齢者という超高齢化社会を迎え、韓国では2020年には高齢化率14%に達するという推計がある。こうした社会を迎えるにあたって、高齢者の自立度を高め、健康寿命を延長することで高齢者の満足度を高めるだけでなく国や地方自治体の福祉財源を軽減させる努力が必要になってくる。そのために、子どもたちに生涯にわたってスポーツを自分のものとする習慣を身につけさせておく必要がある。現在、高齢者支援の問題でさまざまな対応が検討されているが、自立した高齢者の比率をより高めることが今後の課題となってくる。そのためには、中高年期あるいは高齢化してからでは遅く、一人ひとりが子どものうちからスポーツに取り組んでいき、社会全体がそういった認識を持ち、子どもたちに対応していけるような環境づくりが、今後の少子高齢化社会の課題ではない

だろうか。そのためにもさまざまな角度から子どもたちの生活とスポーツへの関わり方を調査し、検討する必要があるといえる。

参考・引用文献

- 文部省, 2000. 6, 『文部省ニュース』。
- 日本体育協会, 2000. 4, 『指導者のためのスポーツジャーナル』。
- 総務庁, 1995, 『国勢調査(平成7年度)』。
- 霊巖郡庁, 2000, 『霊巖郡現況』。
- 秋月 望・丹羽 泉編, 1997, 『韓国百科』大修館書店。
- 森川貞夫編, 1997, 『必携・地域スポーツ活動入門』大修館書店。
- 森川貞夫編, 1987, 『地域に生きるスポーツクラブ』国土社。
- 宮下充正編, 1996, 『スポーツ・インテリジェンス』大修館書店。
- 松村和則, 1993, 『地域づくりとスポーツ社会学』道和書店。
- 武藤芳照ほか, 1993『子どもの成長とスポーツのしかた』築地書店。
- 体育・スポーツ社会学研究会, 1982, 『体育・スポーツ社会学研究会1』道和書店。
- 体育・スポーツ社会学研究会, 1987, 『子どものスポーツを考える』道和書店。
- 高橋義雄, 1994, 『サッカーの社会学』NHK ブックス。
- 大島裕史, 2000.8, 『2002年ワールドカップ日韓の温度差——「体育立国」韓国(特集 現代韓国文化事情)』Aura。
- アプロ21編集部, 2000, 『韓国の経済成長やソウルオリンピックで姿勢転換そして「地方参政権」問題へ(特集日本メディアに見る20世紀の「在日」——<新聞>はどのように報道したか)』アプロ21。
- 黄義龍ほか, 2000, 『韓国スポーツ情報の現状と課題』日本体育大学体育研究所雑誌。
- 黄義龍ほか, 2000, 『韓国におけるスポーツ産業の現状と課題』スポーツ産業学研究。
- 朴鎮敬, 1999, 『スポーツ産業と韓国の経済』スポーツ社会学研究
- 張世昌, 1995, 『韓国における体育・スポーツ社会学の研究動向に関する一考察』スポーツ社会学研究。
- 金恵子ほか, 1997, 『韓国におけるスポーツ参与の増大とスポーツ環境の変化』スポーツ社会学研究。
- 石橋 勇ほか, 2001, 『日韓の生涯スポーツの現状と課題』アプローチ。

개 요

이시바시 쓰요시 , 히구마 다케요시

본 연구 조사는 어린이들의 스포츠관(스포츠에 관한 의식)과 현상을 파악하여 평생 스포츠의 상관, 또는 건강수명과 관련성의 분석을 제시 한 것이다.

지금부터 소자고령화 사회를 맞이할 한국의 스포츠에 관한 어린이들의 의식조사를 했다. 서울올림픽을 계기로 국민들의 스포츠에 관한 관심이 높아지고 , 경기스포츠를 중심으로 이루어져 온 정책으로부터 평생 스포츠를 정책으로 변화하고 있는 한국에서 현재 초등학교에 다니고 있는 어린이(중 , 고등학생)를 대상으로 하여, 어린이들의 스포츠가 어떻게 변화하는지를 조사 집계하고, 시설 그리고 설비 등 하드웨어면과 지도자의 소프트웨어면과의 관련, 스포츠에 관한 의식 등, 데이터 조사를 바탕으로 분석했다. 또한 한국의 도시(광주시)와 농촌(영암읍)의 조사를 통하여 도시와 농촌의 비교조사를 했다.

한국의 도시지역과 농촌지역이라는 환경이 다른 두 지역에서 어린이들의 스포츠에 관한 조사분석을 한 결과, 도시지역과 농촌지역의 스포츠의 실시율(활동율)에는 차이가 없으며 스포츠 환경에 구애받지 않고 스포츠를 하고 있었다. 그렇지만 환경에 의한 스포츠 실시(활동)종목에서는 차이가 크게 나타나고 있다. 어린이들은 환경과 상관하지 않고, 그 환경에 적절한 종목을 통하여 스포츠 활동을 하고 있다. 도시지역에서는 다양한 종목의 스포츠를 할 수 있지만, 농촌지역에서는 전통적인 스포츠 종목인 축구 등을 중심으로 이루어지고 있다. 이처럼 농촌지역에서는 시설 그리고 지도자의 부족으로 여러 가지의 스포츠 종목을 보급할 수 있는 환경이 아닌 것을 말할 수 있다. 그리고 도시지역보다 지도자 그리고 시설을 요구하는 경향이 낫다. 한편, 도시지역에서는 시설 지도자의 요구 등을 통해 스포츠에 관한 관심도를 알 수 있다. 그리고 도시지역에서는 시설 지도자의 요구 등이 되어있지 않으면 스포츠활동을 하지 않은 경향이 나타났다.

2002년 월드컵에 관해서는 역시 가까운 고장에서 시합이 있는 광주시 지역이 관심이 높고 어린이들의 즐거운 기대의 한가지이다. 이와 같이 국제시합을 내 고장에서 개최하는 것만으로도 스포츠에 관한 관심도의 향상과 개최후의 스포츠의 보급률이 높아질 것이라고 기대할 수 있다.